



PA プロセッサー

DriveRack VENU360

取扱説明書

Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 本体を水の近くで使用しないでください。
3. 本体を水または液体の中に入れてください。
4. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
5. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
6. 熱源（ラジエーター、ストーブ、ランプ）などの近くに設置しないでください。
7. 安全のため、必ずアース線をアース端子に接続してください。
8. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
9. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
10. 製品受領時に外部に損傷（電源コード等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージがあった場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れがあります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合があります。
11. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
12. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
13. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
14. 電源コードのプラグは抜き差し可能で、差し込むだけで使用できます。
15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

メンテナンスと修理

本製品は最新の電子技術と素材を使用しているため、それに応じたメンテナンスと修理を行う必要があります。機材へのダメージ、使用者へのケガを防ぐためにメンテナンス/修理は dbx の代理店にて行ってください。

目次

| | |
|---|----|
| 安全上の重要事項..... | 2 |
| メンテナンスと修理..... | 3 |
| はじめに..... | 5 |
| 仕様..... | 5 |
| 各部の名称..... | 6 |
| 背面パネル..... | 8 |
| 設置..... | 9 |
| 接続..... | 10 |
| ネットワーク接続..... | 10 |
| 電源投入..... | 13 |
| 操作..... | 14 |
| 操作モード..... | 15 |
| ホーム画面..... | 16 |
| ユーティリティ機能..... | 19 |
| ウィザード機能..... | 23 |
| RUN AutoEQ/LEVELASSIST (オートEQ/レベルアシスト・ウィザード)..... | 25 |
| AFS ウィザード..... | 31 |
| 入力構成、マスター・クロックソース、&SRC..... | 34 |
| 構成モード..... | 37 |
| プリセット..... | 38 |
| プリセットリスト..... | 42 |
| VENU360 Control App..... | 45 |
| 操作画面..... | 46 |
| 前面パネルロック..... | 48 |
| 工場出荷時の状態へリセット..... | 49 |
| ファームウェアの更新..... | 49 |
| DSP ブロック・ダイアグラム..... | 52 |

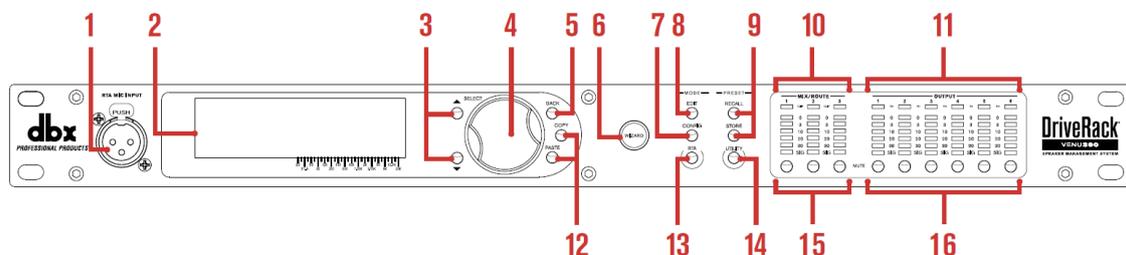
はじめに

この度は dbx DriveRack VENU360 をご購入いただき、誠にありがとうございます。
DriveRack VENU360 は、ミキサーとパワーアンプ間に必要なすべての信号処理を実行する PA プロセッサです。3 入力 6 出力、デジタル入力対応、ウィザード機能も搭載。専用アプリを使用すると、ワイヤレス・リモートコントロールが可能です。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

仕様

| | |
|--------------|---|
| モデル | DriveRack VENU360 |
| 音声入力 | チャンネル数: 3 (端子 1 と 2 はアナログとデジタルで共用) 端子・型式: XLR・電子バランス インピーダンス: 30k Ω 最大音圧レベル: +28dBu |
| RTA マイク入力 | チャンネル数: 1 端子・型式: XLR・電子バランス ファンタム電源: +48V |
| 音声出力 | チャンネル数: 6 端子・型式: XLR・電子バランス インピーダンス: 120 Ω 最大レベル: +22dBu |
| AD/DA コンバーター | 24 ビット、48/96kHz |
| システム性能 | 32 ビット浮動小数点プロセッサ 周波数特性: 20Hz~20kHz (± 0.5 dB) ダイナミックレンジ: 110dB (ウエイトなし) 歪み率 THD+N: 0.0025% (+4dBu、1kHz、0dB ゲイン) |
| 電源 | AC100V、50/60Hz |
| 消費電力 | 18W |
| 寸法 (WxHxD) | 483x44x199mm (突起物を除く) |
| 質量 | 2.6kg |

各部の名称



1. RTA MIC INPUT

dbx RTA-M 測定用マイク（別売）を接続し、ウィザードを使用してサウンドシステムの補正を簡単に行うことができます。+48V ファンタム電源を供給します。

2. LCD ディスプレイ

この画面から VENU360 プロセッサーを操作します。

3. UP/DOWN ボタン

メニューを選択します。ホームモードの時は、ホーム画面を選択します。

4. SELECT

プリセット、メニュー、オプション、パラメーターなどを、このホイールを回転、あるいは押すことにより選択し、編集することができます。

5. BACK

1 つ前のメニューに戻ります。何度か押すとホーム画面に戻ります。

6. WIZARD

ウィザード・メニューに入ります。2 秒以上長押しすると、実行中のウィザードを停止してホームメニューに戻ります。

7. CONFIG

システム構成モードに入ります。

8. EDIT

編集モードに入ります。

9. PRESET

「STORE」、「RECALL」 ボタンを使用してプリセットの保存、呼び出しを行います。

10. MIX/ROUTE&CLIP

SIG~0 まで 6 段階で表示する LED メーター。入力信号レベル、ヘッドルームを表示します。ルーティング/ミキシング処理の直後信号レベルをモニターし、下表に従って表示します。

| Input LEDs | dBFS | +14 dBu Analog Gain Setting | +20 dBu Analog Gain Setting | +24 dBu Analog Gain Setting | +28 dBu Analog Gain Setting |
|------------|------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 0 | -0.1 | +14.1 dBu | +20.0 dBu | +24.2 dBu | +28.2 dBu |
| 3 | -3 | +12.2 dBu | +18.2 dBu | +22.2 dBu | +26.3 dBu |
| 10 | -10 | +5.2 dBu | +11.2 dBu | +15.3 dBu | +19.3 dBu |
| 15 | -20 | -4.8 dBu | +1.2 dBu | +5.3 dBu | +9.3 dBu |
| 20 | -30 | -14.8 dBu | -8.8 dBu | -4.7 dBu | -0.7 dBu |
| SIG | -48 | -32.8 dBu | -26.8 dBu | -22.7 dBu | -18.7 dBu |

MIX/ROUTE メーターの最上段にある LED は、過大入力があり、クリッピングが発生したときに点灯します。この LED はピーク&ホールドが働き、信号レベルがクリップレベル以下になっても少しの間、点灯します。VENU360 に搭載されている dbx Type IVTM 変換システムが過大入力信号をレベルダウンさせ、A/D コンバーターがクリッピングするのを防ぎます。この LED が点灯したときは、ミキサーからの出力レベルを下げます。

11. OUTPUT

SIG~0 まで 6 段階で表示する LED メーターです。出力信号レベル、ヘッドルームを表示します。このメーターはリミッターと MUTE ボタンの後の信号をモニターし、下表に従って表示します。

| Input LEDs | dBFS | +4 dBu Analog Gain Setting | +8 dBu Analog Gain Setting | +12 dBu Analog Gain Setting | +14 dBu Analog Gain Setting | +17 dBu Analog Gain Setting | +20 dBu Analog Gain Setting | +22 dBu Analog Gain Setting |
|------------|------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 0 | -0.1 | +4.5 dBu | +8.6 dBu | +12.4 dBu | +14.3 dBu | +17.2 dBu | +19.8 dBu | +22.1 dBu |
| 3 | -3 | +3.1 dBu | +7.2 dBu | +11.0 dBu | +12.9 dBu | +15.8 dBu | +18.4 dBu | +20.8 dBu |
| 10 | -10 | -3.8 dBu | +0.3 dBu | +4.0 dBu | +5.9 dBu | +8.9 dBu | +11.4 dBu | +13.8 dBu |
| 15 | -20 | -13.8 dBu | -9.8 dBu | -6.0 dBu | -4.1 dBu | -1.1 dBu | +1.4 dBu | +3.8 dBu |
| 20 | -30 | -23.8 dBu | -19.8 dBu | -16.0 dBu | -14.1 dBu | -11.1 dBu | -8.6 dBu | -6.2 dBu |
| SIG | -48 | -41.8 dBu | -37.8 dBu | -34.0 dBu | -32.1 dBu | -29.1 dBu | -26.6 dBu | -24.2 dBu |

各出力チャンネルの出力リミットを 3 色 LED で表示します。

- 緑: 信号レベルはスレッシュホールド未満で、リミッターに達している信号はありません。

- 黄：信号がスレッシュホールドに近いレベルにあり、リミッターが動作し始めています。このLEDが点灯するのはリミッターのOverEasy™設定をONにしたときのみです。
- 赤：信号レベルがスレッシュホールドを超え、リミッターが動作中です。

12. COPY/PASTE

編集集中にパラメーターをコピー&ペーストします。

13. RTA

RTA モジュールに入ります。

14. UTILITY

UTILITY メニューを開き、VENU360 のファームウェア・アップデート、ネットワーク設定、システム設定などを行います。

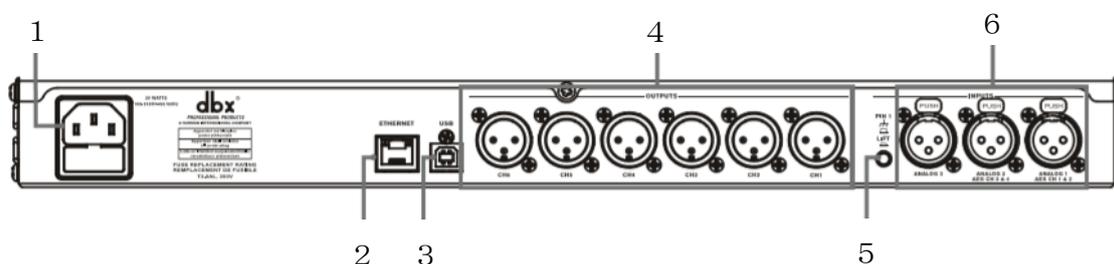
15. MIX/ROUTE MUTE

ミキサーからの入力に対して、出力をミュートします。このボタンは MASTER MUTE パラメーターにより有効/無効の設定をすることができます。

16. OUTPUT MUTE

選択した出力チャンネルをミュートします。出力レベルメーターの直前でミュートされます。ミュートの状態はプリセットには保存されません。しかしながら、電源をON/OFFしてもミュートは保持されます。ユーティリティを使用して、電源を投入したとき、全てのチャンネルをミュートすることができます。また、1つの MUTE ボタンを押しながら電源を投入することにより、全チャンネルをミュートすることもできます。

背面パネル



1. 電源コネクタ

IEC 電源コードを挿し込みます。電源は AC100V、50Hz/60Hz を使用してください。

2. イーサネットポート (RJ45)

ファームウェアのアップデート、DriveRack VENU360 コントロールアプリを使用してタブレットやスマートフォンから VENU360 をコントロールすることができます。

3. USB ポート

ファームウェアのアップデートに使用します。

4. OUTPUTS 1-6 (バランス XLR)

6 チャンネル・バランス出力です。パワーアンプやスピーカーに接続します。クロスオーバー・プロセッシング・モジュールを使用してクロスオーバー周波数を全て重複させることで、フルレンジの信号を全て OUTPUTS 端子から出力することもできます。

5. PIN1/Lift

入力端子 (XLR コネクター) のピン 1 (シャーシ・グランド) を切り離すスイッチです。殆どの用途では、このスイッチを OFF にして使用してください。グラウンドループが原因でハムノイズが発生した場合は、このスイッチを押すと影響を低減できる可能性があります。スイッチを切り替えるときは、アンプの電源を切るか、VENU360 の出力をミュートしてから行ってください。

6. INPUTS 1-2 (バランス XLR)

ミキサーからの信号を入力します。この入力には UTILITY メニューを使用してアナログ /AES デジタルに設定することができます。

設置

本製品はラックマウント専用です。必ず付属のラックマウント用ネジを使用して取り付けてください。

※注意

- ラックに取り付けるときは本製品の周囲に十分な通気があることを確認してください。
- 本体側面と背面に、通気を妨げるものを置かないでください。
- 発熱するものの真上、真下に取付しないようにしてください。
- 周囲温度は 35 度を超えないようにしてください。
- 本体シャーシはシールドされていますが、強い高周波や電磁波から避けて設置してください。

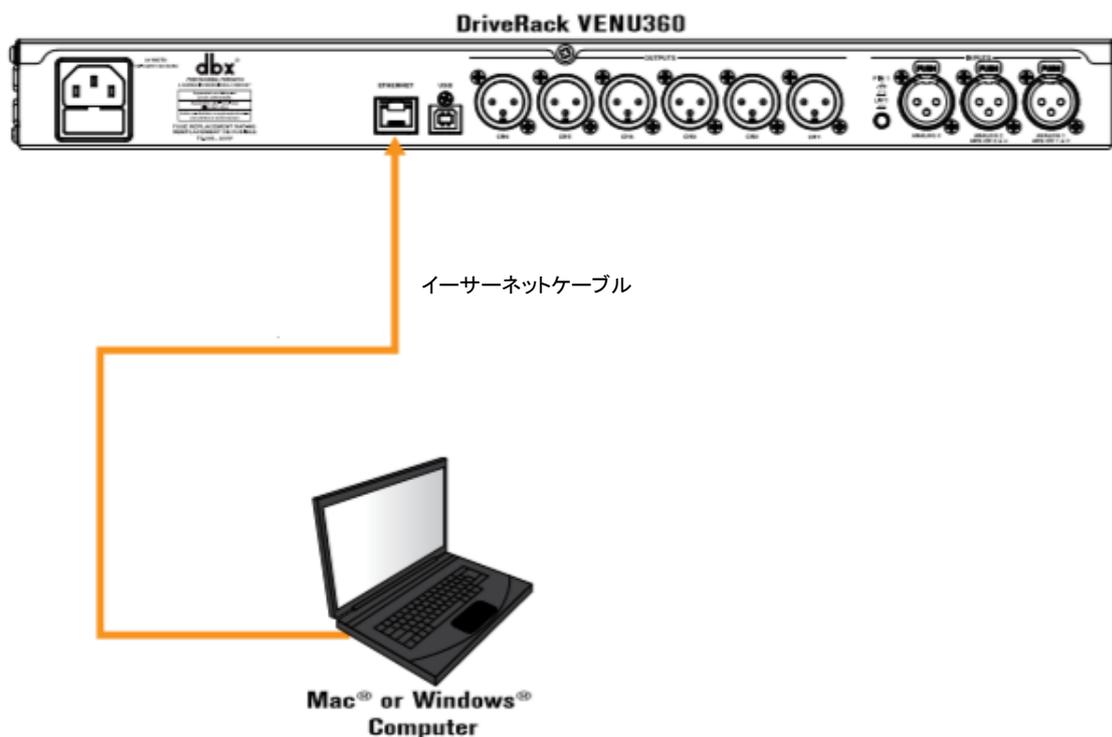
接続

オーディオ機器の接続

1. 機器を接続する前に全ての機器の電源が OFF になっていることを確認します。
2. ミキシングコンソールの出力を本製品の入力端子に接続します。
3. 本製品の出力をアンプ、またはパワードスピーカーの入力端子に接続します。

ネットワーク接続

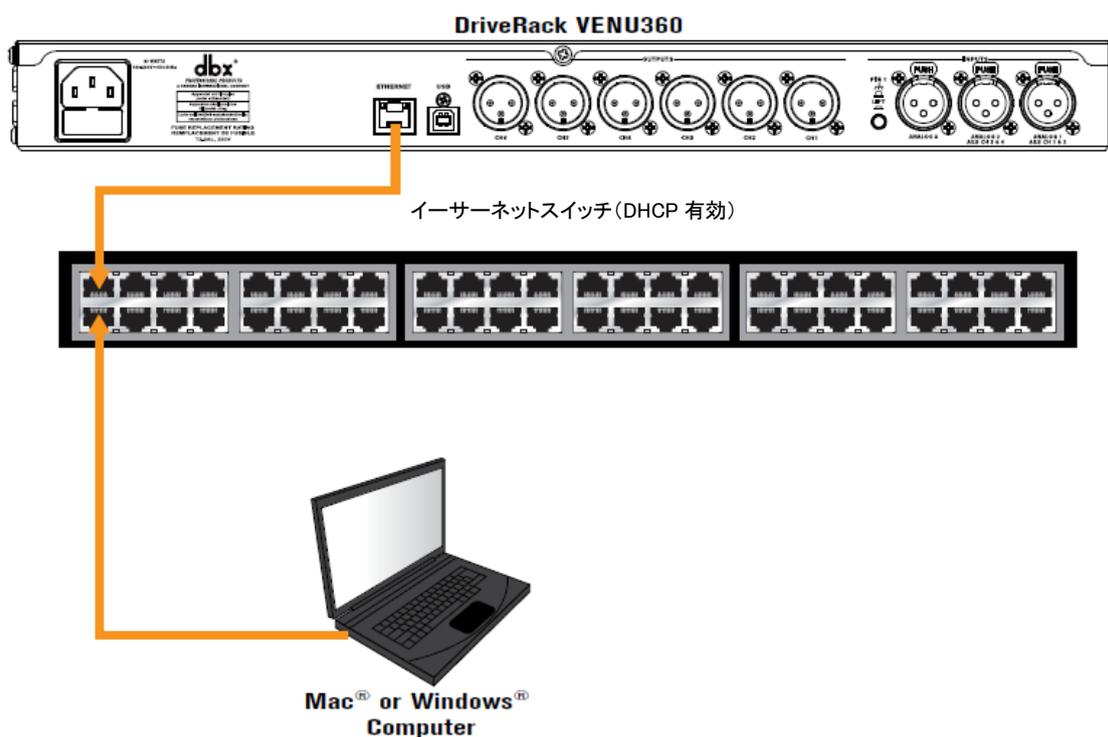
コンピューターと直接接続



1. DriveRack VENU360 コントロールアプリをホームページ (www.dbxpro.com) からダウンロードしてインストールします。
2. イーサネットケーブルを本製品の背面パネルにあるイーサネットポートに接続し、もう片方を PC に接続します。

3. 本製品の電源を ON にします。
4. 「UTILITY」 ボタンを押して画面から SYSTEM INFO を選択、次に Network を選択して、PC 側と同じネットワークにある IP アドレスとサブネットマスクが割り当てられているか確認します。
5. PC から DriveRack VENU360 コントロールアプリを開き、操作を開始します。

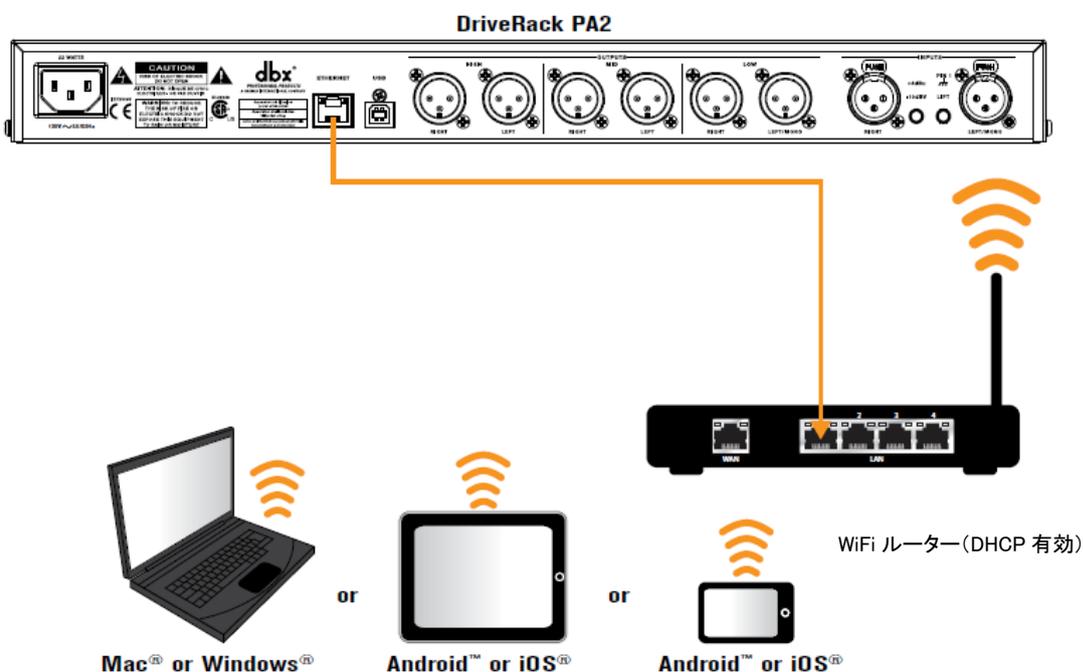
Mac、または Windows PC とイーサネットケーブルで接続



1. DriveRack VENU360 コントロールアプリをホームページ (www.dbxpro.com) からダウンロードしてインストールします。
2. イーサネットケーブルを本製品の背面パネルにあるイーサネットポートに接続し、もう片方を DHCP が有効になっているイーサネットスイッチに接続します。

3. 本製品の電源を ON にします。
4. 「UTILITY」 ボタンを押して画面から SYSTEM INFO を選択し、IP アドレスが割り当てられているか確認します。
5. 別のイーサネットケーブルを使って Mac、Windows PC とイーサネットスイッチを接続します。
6. Mac、Windows PC から DriveRack VENU360 コントロールアプリを開き、操作を開始します。

WiFi ルーターを使用してタブレットやスマートフォンと接続



1. DriveRack VENU360 コントロールアプリを App Store、Google Play、ホームページ (www.dbxpro.com) からダウンロードしてインストールします。
2. イーサネットケーブルを本製品の背面パネルにあるイーサネットポートに接続し、もう片方を DHCP が有効になっている WiFi ルーターに接続します。
3. 本製品の電源を ON にします。
4. 「UTILITY」 ボタンを押して画面から SYSTEM INFO を選択し、IP アドレスが割り当てられているか確認します。
5. タブレットやスマートフォンから DriveRack VENU360 コントロールアプリを開き、操作を開始します。

電源投入

1. パワーアンプやパワー・スピーカーの電源が **OFF** になっていることを確認します。
2. 付属の電源ケーブルを VENU360 の背面パネルにある電源コネクタに接続し、もう片方をコンセントに挿し込みます。VENU360 には電源スイッチがなく、電源ケーブルをコンセントに挿し込んだときに電源が **ON** になります。
3. ミキサー、パワーアンプ、パワー・スピーカーなどの電源を **ON** にします。

※注意

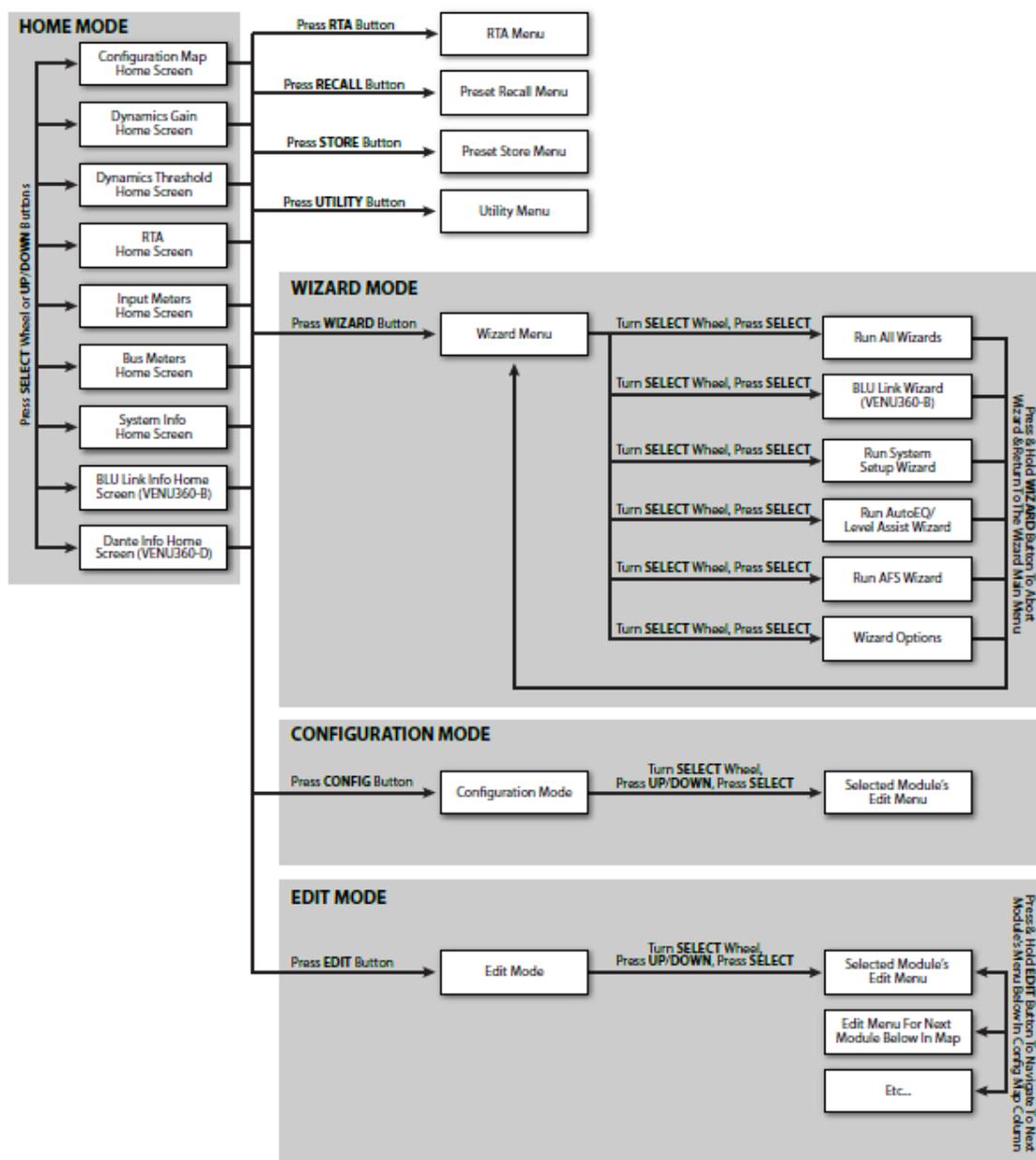
PA システム全体を立ち上げる際には、最初にミキサーと VENU360 の電源を **ON** にし、次にパワーアンプとパワー・スピーカーの電源を **ON** にします。このとき、ミキサーのフェーダーを最小レベルに下げてください。

電源を落とすときは、パワーアンプやパワー・スピーカーの電源を最初に **OFF** にしてから、およそ 10 秒待ち、それからミキサーと VENU360 の電源を **OFF** にします。

操作

操作メニュー

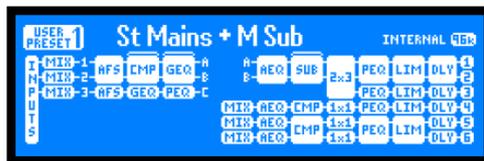
DrivePack VENU360 には使いやすく直感的に操作できる操作メニューが用意されています。



操作モード

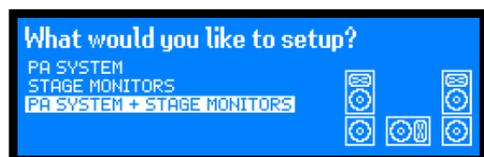
ホームモード

VENU360の電源をONにしたとき、最初に表示される画面です。操作中は「BACK」ボタンを繰り返し押すことにより、ホーム画面に戻ることができます。



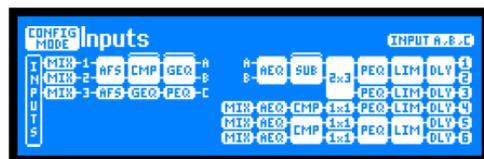
ウィザードモード

「WIZARD」ボタンを押すとウィザードモードに入ります。新たなシステムを構成したり、各種設定項目を効率良く編集することができます。また、このモードは RTA-M マイクを使用した AutoEQ 設定にも使用します。ウィザードを実行中に「WIZARD」ボタンを押すと、そのウィザードは中断されウィザード・メインメニューに戻ります。



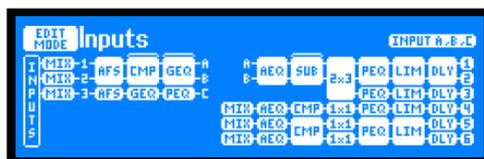
構成モード (CONFIG MODE)

「CONFIG」ボタンを押すと構成モードに入ります。プリセットをマニュアルで変更を加え、Setup Wizard では変更できない高度なシステム構成を作ることができます。構成モードに入ると、CONFIG MODE が画面左上に表示されます。SELECT ホイールと UP/DOWN ボタンを使用して、画面のマップを移動しながら構成を変更するモジュールを選択します。



編集モード

「EDIT」ボタンを押すと、編集モードに入ります。プロセッシング・モジュール・パラメーター、システム・パラメーターなどを編集することができます。編集モードに入ると、EIDT MODE が画面左上に表示されます。SELECT ホイールと UP/DOWN ボタンを使用して、画面のマップを移動しながら編集するモジュールを選択すると、選択されたモジュールのタイトルが画面上に表示されます。画面右上には編集するモジュールにより影響を受ける入出力チャンネルが表示されます。編集するモジュールを選択し、SELECT ホイールを押すとメニューに入り、パラメーターの編集が可能になります。



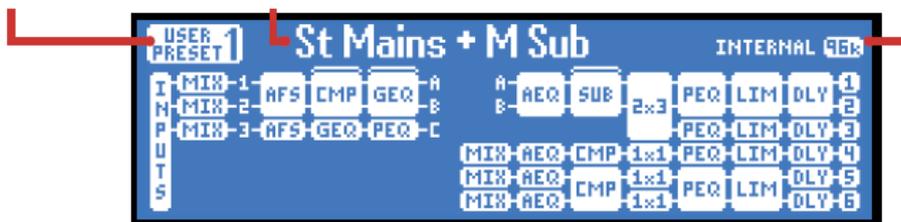
ホーム画面

ホーム画面は VENU360 の電源を ON にしたとき、最初に表示される画面です。各画面の上部に現在ロードされているプリセット番号/タイプ、名前、クロックソース/サンプルレートが表示されます。ホイールつまみを押すと各ホーム画面を切り替えることができます。

プリセット名が長すぎて表示できない場合、SELECT ホイールを回すと残りの文字を表示することができます。それぞれのホーム画面は SELECT ホイールと UP/DOWN ボタンで選択します。

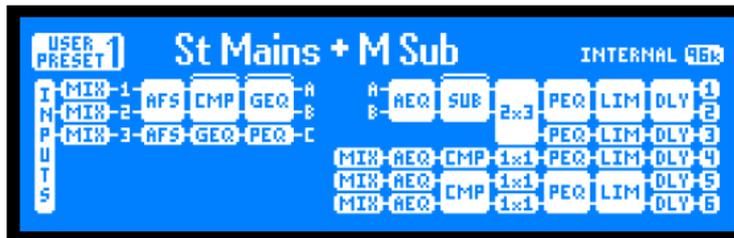
プリセット番号/タイプ プリセット名

クロックソース/サンプルレート



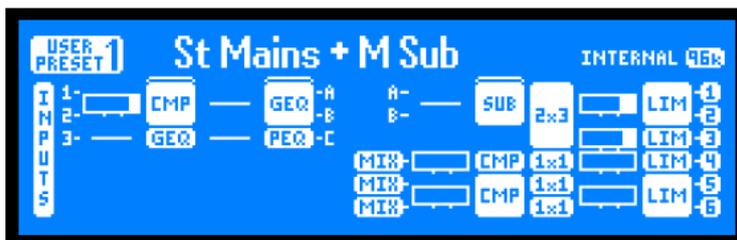
システム構成ホーム画面（初期画面）

現在ロードされている構成と信号フローを表示します。画面左側に入力、右側に出力、中間にプロセッシング・モジュールが表示されます。



ダイナミック・ゲイン・ホーム画面

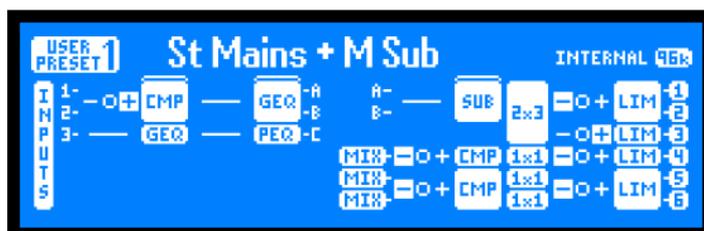
コンプレッサー、リミッター、AGC、ノイズゲートなどのダイナミック・プロセッサーに対するゲイン調整量を表示します。ダイナミック・プロセッサー以外の音響調整機能は、四角とその横にラインメーターの代わりに横線が表示されます。



ダイナミック・スレッシュヨルド・ホーム画面

すべてのダイナミックプロセッサーの状態を表します。画面左の数値はスレッシュヨルドを示しています。「-」が白く反転した場合、信号がスレッシュヨルド以下であり、ダイナミックプロセッシングが行われていないことを表します。「o」は信号レベルがリミッターの OverEasy 範囲内にあり、コンプレッションがかかり始め、リミッターに近い状態にあるとき表示されます。（「o」は OverEasy が有効になっているときのみ有効です）。

「+」が白く反転したときは、信号レベルがスレッシュヨルドを超え、コンプレッションがフルにかかっているか、リミッターが働いている状態であることを表しています。画面右側は圧縮されたゲインの量を表します。



RTA ホーム

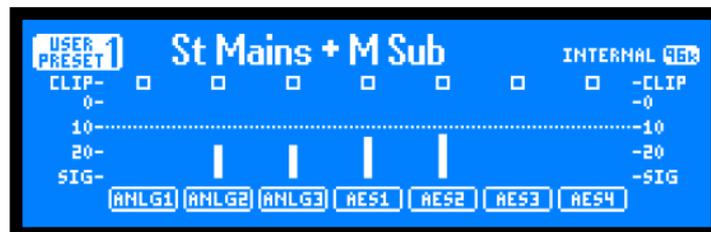
画面

RTA (Real Time Analyzer) にアクセスできます。別売りの RTA-M マイクを接続し、システムサウンドを詳細に設定したり、トラブルシュートに使用することができます。



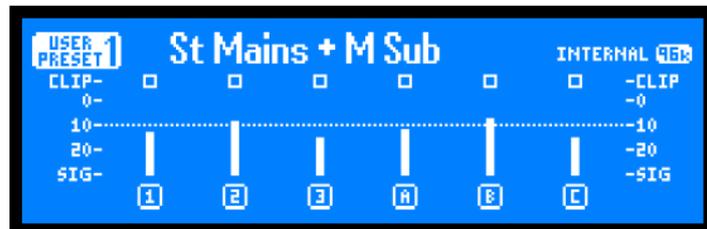
入力メーター・ホーム画面

全入力の信号レベルとクリップの状態を表示します。



バス・メーター・ホーム画面

入力信号パス（1, 2, 3, A, B, C など）のバスポイントのゲインを表示します。1/2/3 バスポイントはシグナル・プロセッシング前、A/B/C はシグナル・プロセッシング後の状態を表示します。



システム情報ホーム画面

ファームウェアバージョン、ネットワーク IP アドレスが表示されます。



※電源起動時は、電源を OFF にする前に選択されていたホーム画面が表示されます。

※ユーティリティの TIME OUT を設定して、最後の操作から一定の時間経過後にホームに戻るまでの時間を設定できます。

ユーティリティ機能

ユーティリティ機能を使用してシステムパラメーターやシステム設定を変更管理することができます。

ユーティリティパラメーター

ユーティリティメニューを開くには「UTILITY」ボタンを押し、編集する項目を選択することができます。

SYSTEM INFO

ファームウェアバージョン、ネットワーク IP アドレス、MAC アドレスなどのシステム情報を表示することができます。

Analog Input/Output Clip Levels

(Input: +14/+20/+24/+28dBu、Output: +4/+8/+12/+14/+17/+20/+22dBu)

本製品と接続機器（ミキサー、パワーアンプ、パワードスピーカー）のアナログゲイン構造が最適になるようクリップレベルを設定します。適切に設定することで、アナログ信号の SN 比を改善し、機能の性能を最大限に発揮させることが可能になります。例えば、ミキサーの最大出力レベルが 28dBu の場合、それに合わせて「+28dBu」に設定します。逆に、パワーアンプのアッテネーターが最大限に達している場合は、+4dBu 程度に設定してアナログ出力レベルを減衰されることでパワーアンプのクリップを防止できます。

※注意

Analog Output Clip Levels は、システム設定ウィザードでパワーアンプのモデル名を選択した場合は自動的に設定されます。パワーアンプのクリップやスピーカーの損傷を防止するために、設定を手動で変更する際は注意してください。

Analog Output Clip Levels の設定を変更する場合は、ミキサーの出力レベルを十分に下げた後に行ってください。

XLR INPUT FORMAT (XLR1/XLR2 FORMAT : ANALOG/AES3&4、 Sample Rate Conversion :OFF/ON)

XLR1 および XLR2INPUT 端子の入力フォーマットを設定します。端子ごとにアナログ入力またはデジタル入力を設定できます。デジタル入力には 110Ω・バランスケーブルを使用してください。

デジタル入力を選択した場合、各 XLR 端子に対しサンプルレート変換 (SRC) の ON/OFF を個別に設定できます。これにより、48kHz または 96kHz 以外のサンプルレートで動作する最後のクロックまたは外部機器との接続に対応することが可能です。

Clock Source (Internal 48kHz/Internal 96kHz/AES 1&2/AES3 &4)

本製品を同期させるクロックソースおよび内部クロックのサンプルレートを設定します。

LCD CONTRAST (0%-100%)

LCD ディスプレイのコントラストを調整します。

LCD Backlight (Dim/Medium/Bright)

ディスプレイのバックライトの輝度を設定します。

TIME OUT (10 秒、30 秒、1 分、3 分、4 分、5 分、10 分、無効)

一定時間操作が無かった場合、ホーム画面に戻るまでの時間を設定します。

※Home Screen Time Out は、モード/メニューによっては機能しません。例えば、ウィザードの実行中などの、ユーザーによる変更作業中は内容が誤って失われることを防止するためにタイムアウトしません。

Preset Powerup (CURRENT/STORED)

本製品の電源を ON にしたときの、プリセットの状態を設定します。(CURRENT) に設定した場合は、最後に電源を OFF にした時点でのプリセット設定で起動します。

(STORED) に設定した場合は、メモリーに保存されたプリセットを呼び出して起動します。

MUTES POWERUP (CURRENT、MUTE ALL)

電源投入時に全部の出力をミュートするか、または電源を OFF にする前のミュート設定通りにするかを選択します。

SECURITY

パスワードの表示、変更を行います。初期パスワードは「administrator」です。パスワードを初期値以外のものに変更すると、セキュリティー機能が働き、「VENU360 Control App」からアクセスにはパスワードが必要になります。

DEVICE NAME

デバイス名を設定します。

SALES BANNER (ON/OFF)

セールスバナー表示を ON/OFF します。

Map Navigation (Horizontal/Vertical)

ホイールつまみを回したときの構成マップ上の移動方向を設定します。

Preset Recall List

全面パネルから呼び出すことができるプリセットの範囲を設定します。デフォルトでは全てのプリセットを呼び出せるように設定されています。ホイールつまみを左に回すと、呼び出すことができるプリセットリストの範囲が狭くなります。ホイールつまみを右に回すと、呼び出すことができるプリセットの範囲が広がります。

例えば、先頭の 5 つのプリセットのみを使用する場合、リストのサイズをその 5 つに制限しておけば、その他のプリセットを全て隠すことができます。Preset Recall List のサイズは 1～25 の間から選択可能です。この機能を使用する場合、呼び出したいプリセットは、番号が最下位のプリセットメモリー位置に保存されている必要があります。必要な場合、25 より上のメモリー位置にあるプリセットを下のメモリー位置にコピーすることができます。

テキスト、数値の編集

プリセット名、デバイス名、セキュリティー機能のパスワードや IP アドレスの設定などで画面上のテキストや数値を編集する方法を下表に示します。ホイールつまみを押すと、テキスト入力モードごとに操作方法が表示されます。

テキスト入力モードの切り替え

| 操作 | モード 1 | モード 2 |
|------------------------------------|--|---|
| ROTATE SELECT (ホイールつまみを回す) | MOVE CURSOR (カーソルの移動) | MODIFY CHARACTER (テキストの編集) MODIFY ADDRESS (アドレス編集) |
| PRESS SELECT (ホイールつまみを押す) | TOGGLE MODE (テキスト入力モード 1 と 2 の切り替え) | |
| PRESS UP/DOWN※ (UP/DOWN ボタンを押す) | INS/DEL CHARS (UP:文字の挿入、DOWN: 文字の削除) | CHANGE CHAR TYPE (テキストの種類を変更: 大文字⇔小文字⇔記号) |
| PRESS UTILITY (UTILITY ボタンを押す) | SAVE CHANGES (変更を保存) | |
| PRESS BACK (BACK ボタンを押す) | ABORT CHANGES (変更をキャンセル) | |

※UP/DOWN ボタンはテキスト変更時のみ有効。IP アドレスの変更時は表示されません。

ウィザード機能

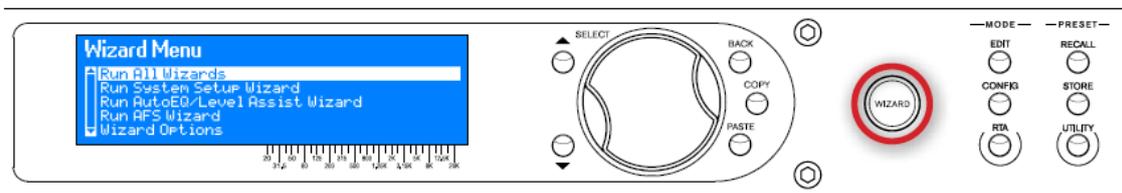
DriveRack VENU360 を使用したスピーカーシステムの設定は、ウィザード機能を使用すると簡単にできます。

ウィザードの使用方法

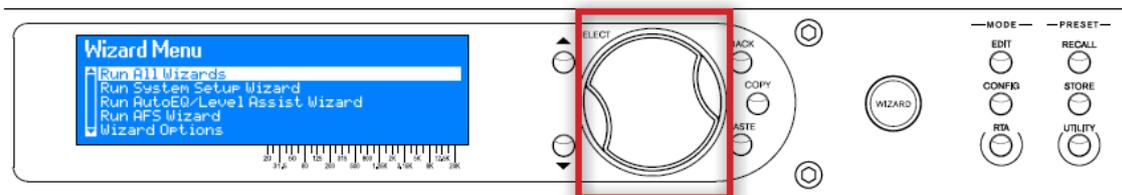
ウィザードを起動するには「WIZARD」ボタンを押します。ウィザードを使用すると簡単に、ステップ毎に操作説明に従うだけでアンプ、スピーカーなどを会場に合わせて設定を行うことができます。

別売りの dbx RTA-M マイクを使用してウィザードを実行すると、左右のスピーカーバランス、Low/Mid/High レベルバランスを調整してサウンドシステムを最適化し、会場の音響特性を解析して適切な EQ を設定するなど、マニュアルで解析して設定するより時間を大幅に短縮できます。

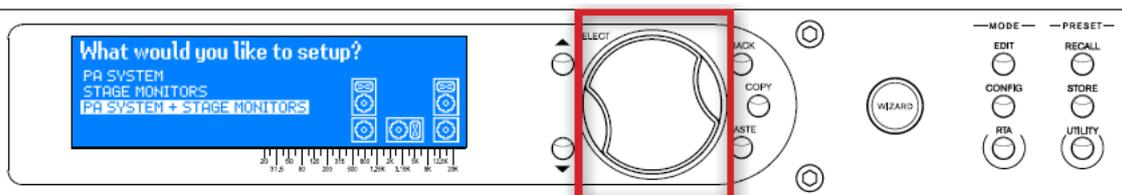
1. 「Wizard」ボタンを押します。



2. ホイールつまみを回して RUN ALL WIZARDS を選択します。



3. 画面の指示に従って編集項目を選択し、ホイールつまみを押しして確定します。



※ 「Wizard」ボタンを2秒以上長押しすると、実行中の Wizard を中止してメイン Wizard メニューに戻ります。

RUN ALL WIZARDS

全部のウィザードメニューを連続して実行します。

RUN SYSTEM SETUP WIZARD

使用するスピーカーやパワーアンプのモデル名及び構成などを選択していただくだけで、クロスオーバー、パラメトリック EQ、出力ディレイ、極性、リミッターを最適な値に自動設定します。使用するスピーカーとアンプがリストに無い場合、「Not Listed??」を選択すると初期設定が適用されます。このウィザードはアナログ信号の XLR 入力や AES 入力、マスタークロックの設定にも使用します。

※Setup Wizard により設定したプリセットを初めから設定し直すときは、「Start from default settings?」のメッセージに対して、YES を選択します。このとき、アンプやスピーカーに設定したプリセットは消去されます。プリセットを作り直す場合、初めに元の設定をコピーして保存してください。

RUN AutoEQ/LEVEL ASSIST (オート EQ/レベルアシスト・ウィザード)

オプションの測定用マイク (dbx RTA-M) を使用して音響特性調整を行います。オート EQ では、31 バンド・リアルタイム・アナライザーで音場を測定し、パラメトリック EQ で周波数特性を自動補正します。また、レベルアシストでは、音圧レベルを測定し、スピーカーのレベルおよび LR バランスを分析、最適なパワーアンプのゲイン設定をディスプレイに表示します。

RUN AFS WIZARD (AFS ウィザード)

ハウリングを意図的に発生させることで、会場のハウリングポイントに固定のノッチフィルターを自動で挿入します。

LEVEL ASSIST AUTO TRIM (ON/OFF)

レベルアシストの自動レベル調整の ON/OFF を設定します。ON に設定した場合は、音響システムのレベルの不整合が 3dB 以下であれば自動的に調整します。OFF に設定した場合は、自動調整は行われません。

※LEVEL ASSIST AUTO TRIM によって自動レベル調整された値は、確認および変更できません。設定した値を無効にするには、LEVEL ASSIST AUTO TRIM を OFF に設定した後、再度レベルアシスト・ウィザードを実行してください。

MIC RESPONSE (dbx RTA-M/FLAT)

測定用マイクに dbx の RTA-M を使用することにより、オート EQ 実行時の周波数特性を補正し、正確な結果が得られます。RTA-M を使用する場合は、dbx RTA-M を選択してください。その他の測定用マイクを使用する場合は、FLAT を選択してください。

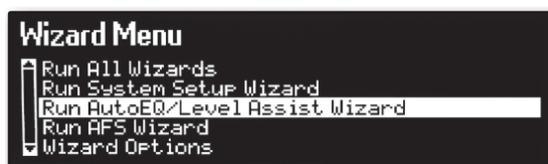
SETUP AUTO NAMING (ON/OFF)

プリセット名自動生成機能を ON/OFF します。ON に設定した場合は、システム設定ウィザードで設定したスピーカーのモデル名や構成に基づき、プリセット名が自動で生成されます。OFF に設定場合は、現在のプリセット名を保持します。プリセット名を変更する場合は、保存時に編集してください。

RUN AutoEQ/LEVEL ASSIST (オート EQ/レベルアシスト・ウィザード)

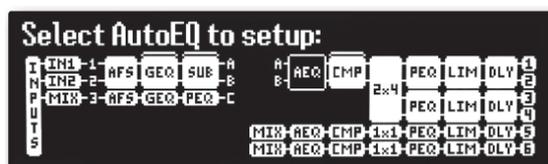
1. WIZARD ボタンを押してウィザードモードに切り替えます。

2. RUN AutoEQ/LEVEL ASSIST を選択し、ホイールつまみを押します。



3. Select AutoEQ to setup
設定するオート EQ モジュールを選択してください。

ホイールつまみを回して構成マップ上のカーソルを移動し、設定する AEQ のアイコンを選択、決定してください。



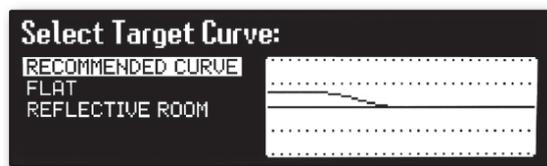
4. Select wizard option:
実行するウィザードを選択します。
レベルアシストとオート EQ を設定する場合は、LEVEL ASSIST & AUTOEQ を選択してください。LEVEL ASSIST ONLY を選択すると、レベルアシストのみ、AUTOEQ を選択するとオート EQ のみを設定します。



5. Select Target Curve :
ターゲットカーブを選択します。
RECOMMEND CURVE8 推奨されたカーブ)
FLAT (フラット)

REFLECTIVE ROOM (反射音の多い部屋)

オートEQによる補正方法を設定します。音響システムの周波数特性がフラットの場合、低域が少し弱く聞こえる場合があります。



6. Connect RTA mic and place it as shown.

最初にレベルアシストウィザードを実行します。測定用マイクを前面パネルの RTA MIC INPUT 端子に接続してマイクスタンドに立て、右表示の通り、



LR スピーカーと正三角形を形成するように、x 印の位置に設置してください。ホイールつまみを押すとメインスピーカーL 側の中域 (left mid) から音圧レベルの測定を開始し、スピーカーのレベルおよび LR のバランスを分析します。キャンセルする場合は、ホイールつまみを押してください。

※測定環境に問題がある場合は、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

- Environment too noisy (周囲ノイズが多い)
- Signal level at RTA Mic too low or too much background noise (測定用マイクの信号レベルが低すぎる、またはバックグラウンドノイズが多すぎる)
- Test signal too quiet, or too much background noise (測定に必要な信号レベルが低すぎる)
- Test signal not detected (信号を検知できない)
- Test signal level too low (測定に必要な信号レベルが低すぎる)
- RTA Mic input clip detected (測定用マイクの入力でクリップが検知された)
- Background noise level has increased too much (バックグラウンドノイズのレベルが高くなりすぎている)
- No RTA mic detected. Check connection (測定用マイクを検知できない) 接続を確認してください

測定音以外の周囲の音大きい、スピーカーや測定用マイクが正しく接続されていない、ミキサーやパワーアンプのレベルが低いなどが原因として考えられます。適切な改善を行った後、TRY AGAIN を選択し、ホイールつまみを押してください。再度計測を開始します。

7. Adjust your left Main amp level. Turn up 4dB

L側のメインスピーカー用パワーアンプのレベル調整をしてください。この場合4dB上げてください。



調整の必要がある場合は、図のようなパワーアンプの推奨ゲイン設定が表示されるので、パワーアンプのアッテネーターを調整してください。調整後、TEST AGAIN を選択し、ホイールつまみを押すと、再度測定を開始します。再測定をスキップし、次のスピーカーの測定に進む場合は SKIP を選択し、ホイールつまみを押してください。

8. L→C→R、そしてサブウーハーの L→C→R の順に音圧レベルの測定と分析が進みます。調整が必要な場合は手順7のように表示されるので、パワーアンプのアッテネーターを調整してください。

9. Select number of RTA mic measurements:

RTA マイクで測定する位置の数を選択してください。

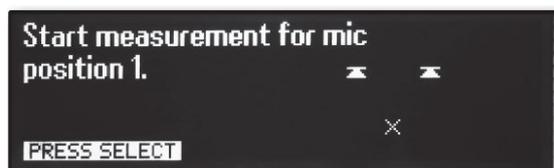


次にオート EQ を実行します。測定用マイクで測定する位置の数を 2 (GOOD)、3 (BETTER)、4 (BEST) から選択し、ホイールつまみを押してください。測定箇所が多くなるほど、分析結果の精度が高まります。

10. START measurement for mic position1.

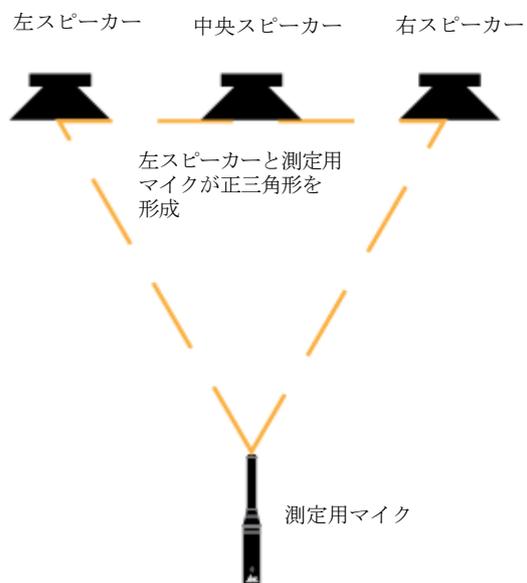
Position1 のマイクを測定します。

表示の通り、測定用マイクを LR のスピーカーと正三角形を形成するよう、x印の位置に設置してください。ホイールつまみを押すとリアルタイム・アナライザーで

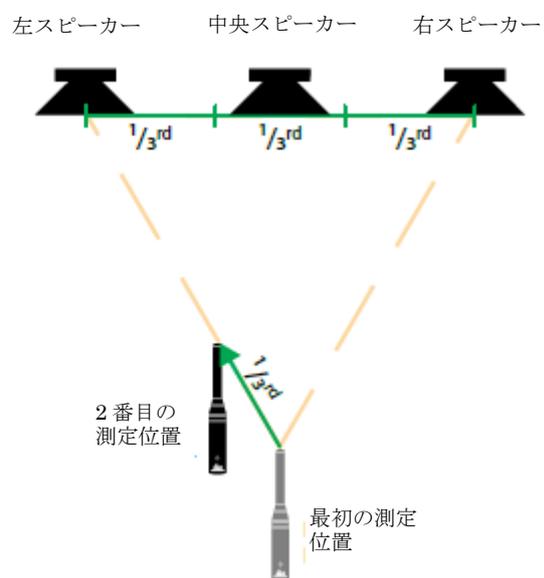


音場の測定を開始します。キャンセルする場合は、ホイールつまみを押してください。測定後、次の測定箇所の指示が表示されます。順次、測定用マイクを移動させて測定を行ってください。各測定箇所の詳細は以下の通りです。手順7で2 (GOOD) を選択した場合は測定位置 1 と 2 のみ、3 (BETTER) を選択した場合は測定位置 1、2、3、4 (BEST) を選択した場合は、全ての測定位置で測定します。

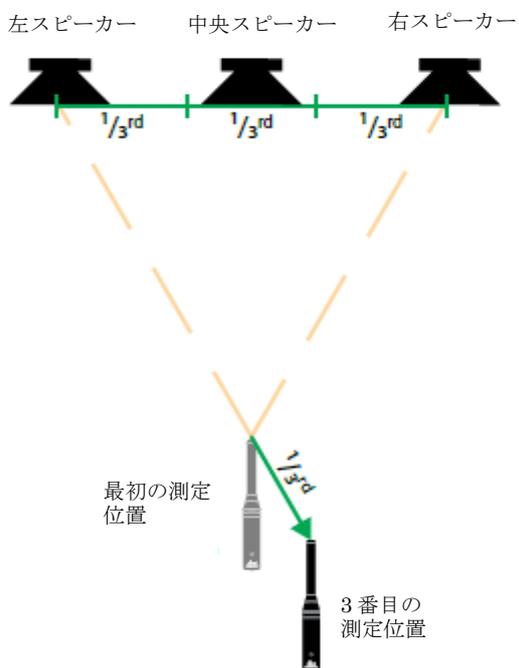
Level Assist/AutoEQ 測定位置 1



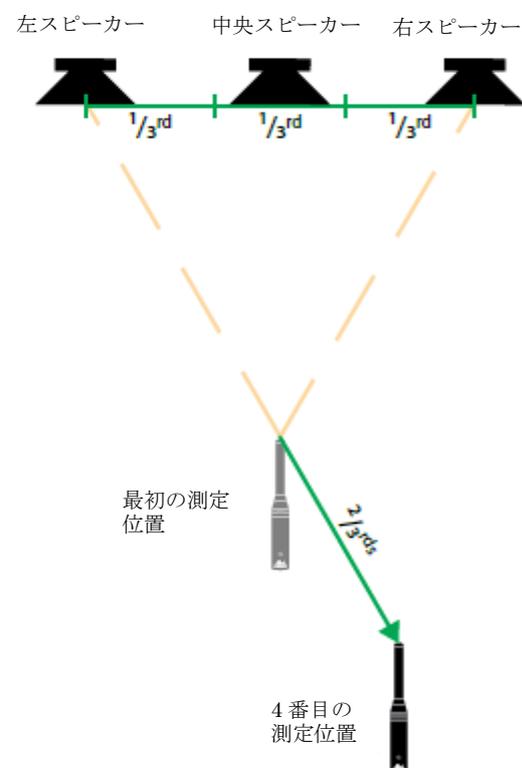
AutoEQ 測定位置 2



AutoEQ 測定位置 3



AutoEQ 測定位置 4



測定位置 1

測定用マイクを L (C) R スピーカーと正三角形を形成するように設置してください。

測定位置 2

測定用マイクを L 側のスピーカーに近づけます。測定用マイクと L 側スピーカーとの距離が測定位置 1 と比べて $1/3$ 程度短くなるようにしてください。

測定位置 3

測定用マイクを L 側のスピーカーに遠ざけます。測定用マイクと L 側スピーカーとの距離が測定位置 1 と比べて $1/3$ 程度長くなるようにしてください。

測定位置 4

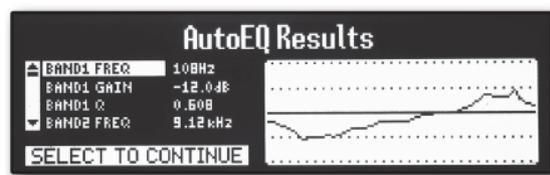
測定用マイクを L 側のスピーカーに遠ざけます。測定用マイクと L 側スピーカーとの距離が測定位置 1 と比べて $2/3$ 程度長くなるようにしてください。

※測定環境に問題がある場合は、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

- Environment too noisy (周囲ノイズが多い)
- Signal level at RTA Mic too low or too much background noise (測定用マイクの信号レベルが低すぎる、またはバックグラウンドノイズが多すぎる)
- Test signal too quiet, or too much background noise (測定に必要な信号レベルが低すぎる)
- Test signal not detected (信号を検知できない)
- Test signal level too low (測定に必要な信号レベルが低すぎる)
- RTA Mic input clip detected (測定用マイクの入力でクリップが検知された)
- Background noise level has increased too much (バックグラウンドノイズのレベルが高くなりすぎている)
- No RTA mic detected. Check connection (測定用マイクを検知できない) 接続を確認してください

※測定音以外の周囲の音大きい、スピーカーや測定用マイクが正しく接続されていない、ミキサーやパワーアンプのレベルが低いなどが原因として考えられます。適切な改善を行った後、TRY AGAIN を選択し、ホイールつまみを押してください。再度計測を開始します。

11. 全ての測定が完了すると分析を開始し、パラメトリック EQ で周波数特性を自動補正します。完了するまで、そのままお待ちください。オート EQ が完了すると結果が表示されます。



12. ホイールつまみを押すと、ウィザード機能の最初の画面に戻ります。他のシステムも設定する必要がある場合、次の画面で Run AutoEQ for another system? のメッセージが表示されます。設定する場合は YES を選択、決定し手順 3 に戻ります。NO を選択するとウィザードが完了し、最初の画面に戻ります。

AFS ウィザード

※AFS ウィザードを実行すると、突発的に大きな音が発生することがあります。

※ウィザードの実行前に **Wizard Options** の設定状況を確認してください。

※AFS ウィザードが完了すると、固定フィルターとして挿入されていないノッチフィルターは全て、マイクの移動時も追従できるライブフィルターとして自動的に設定されます。

1. 本番で使用する全てのマイクを適切な位置に設置してミキサーと接続し、サウンドチェックとラフミックスを行ってください。
2. **WIZARD** ボタンを押してウィザードモードに切り替えます。
3. **RUN AFS WIZARD** を選択し、ホイールつまみを押してください。

4. **Select AFS to setup :**

ホイールつまみを回してマップ上で該当する **AFS** のアイコンを選択・決定してください。



5. サウンドチェックとラフミックスが完了していることを確認し、ホイールつまみを押してください。
確認が終わったら、ホイールつまみを押してください。



6. ノイズゲートを使用している場合、バイパスして、ホイールつまみを押してください。



7. ミキサーの出力フェーダーを1番下まで下げた後、ホイールつまみを押してください。



8. 固定フィルターの数を設定します。
デフォルト設定は6です。変更する場合は
NO、変更しない場合は YES を選択し、
ホイールつまみを押してください。



※固定フィルターとは、AFS ウィザードで使用される固定のノッチフィルターで、会場のハウリングポイントに自動的に挿入されます。

9. ノッチフィルターの種類(幅)を設定します。用途に応じて以下から選択し、ホイールつまみを押してください。



Speech : 76Hz 未満は帯域幅を 11Hz に固定し、76Hz 以上は Q を 7 に固定します。
ハウリングへの反応速度を最優先にして動作するため、スピーチやアナウンスのみの用途に最適です。

Music/Speech : 260Hz 未満は帯域幅を 9Hz に固定し、260Hz 以上は Q を 29 に固定します。最も汎用性の高い設定で、ライブとスピーチ/アナウンスを両方行う用途に適しています。

Music : 927Hz 未満は帯域幅を 8Hz に固定し、927Hz 以上は Q を 116 に固定します。
音質を最優先にして動作するため、ライブのみの用途に最適です。

※Q はフィルターの鋭さを表しており、値が大きいくほど鋭くなります。

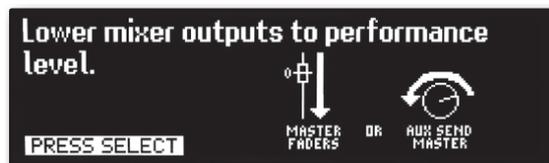
10. マイクの周辺が静かな状態で、ゆっくりとミキサーのフェーダーを上げてください。
ハウリングが発生し、固定フィルターが自動的に挿入されていきます。全ての固定
フィルターが挿入されると、自動的に
設定を完了します。フェーダーを十分に
上げてても全ての固定フィルターが挿入
されない場合は、固定フィルターの数を
減らしてください。



※全ての固定フィルターが挿入されないまま一定時間が経過すると Are you done setting FIXED filters?が表示されます。固定フィルターの挿入を最初からやり直す場合は NO、固定フィルターの挿入を完了して次の手順に進む場合は YES を選択し、ホイール

つまみを押してください。

11. ミキサーのフェーダーをラフミックス時の位置に戻し、ホイールつまみを押してください。



12. 全てのノッチフィルターの設定状況が表示されます。Fは固定フィルター、Lはライブフィルターを表します。ホイールつまみを回すと、挿入された固定フィルターの設定周波数、Q、および減衰量を確認できます。ホイールつまみを押すと、ウィザード機能の最初の画面に戻ります。



入力構成、マスター・クロックソース、&SRC

VENU360 では、内部クロック、または AES 入力をマスター・クロックソースとして使用できます。内蔵サンプルレート変換 Build in sample rate conversion (SRC) は、別のクロックを持つ 2 台のデジタル機器をそれぞれ AES 入力に接続するとき、または AES 信号のサンプルレートが 48、96kHz 以外のデジタル機器を接続するときを使用することができます。

Setup Wizard を使用すると、VENU360 は用途に応じて自動的に XLR 入力とマスター・クロックソースを設定します。

アナログ機器を入力

アナログ機器を入力するときは、Internal 48kHz、または Internal 96kHz クロックソースを選択します。このとき、XLR1 と XLR2 はアナログとして設定されている必要があります。

(初期設定ではアナログに設定されています)

ユーティリティ設定

UTILITY ボタンを押して、ユーティリティ機能画面を開きます。

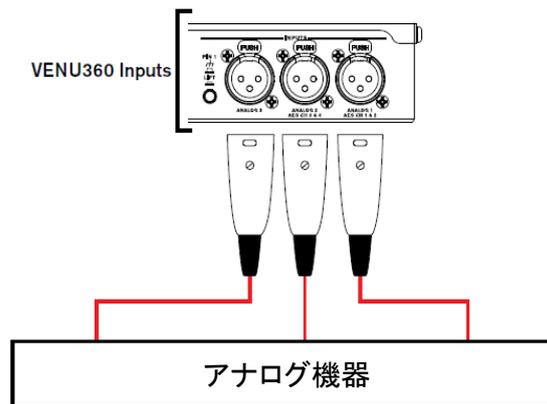
Clock Source: Internal 48 kHz
or 96 kHz

XLR 1 Input Format: Analog 1

SRC: N/A

XLR 2 Input Format: Analog 2

SRC: N/A

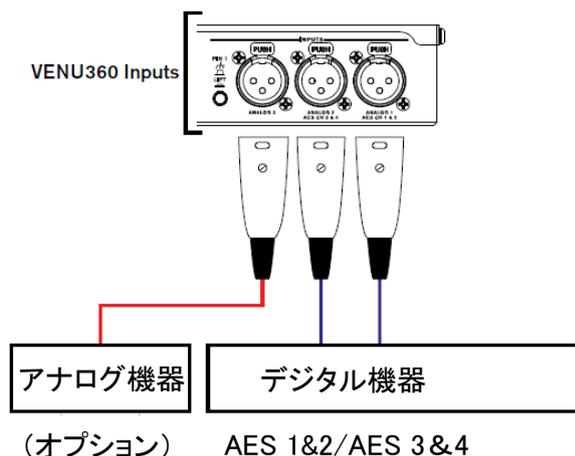


1 台の機器から同じサンプルレート（48/96kHz）の信号を入力するとき

ミキサーのように、1 台の機器から同じサンプルレート（48/96kHz）の信号を出力する機器を入力します。クロックソースは Internal 48/96kHz どちらかを選択します。SRC は両方共に OFF にします。この例では XLR1、2 の入力フォーマットを AES にします。

同じように、外部ワードクロックの利用により同期されたクロックを使用する 2 台のデジタル機器を接続する際にも使用できます。

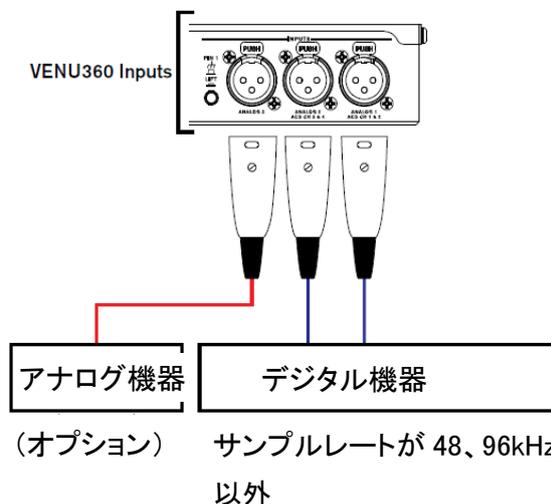
Clock Source: AES 1&2、
AES 3&4
XLR 1 Input Format: AES 1&2
SRC: OFF
XLR 2 Input Format: AES 3&4
SRC: OFF



サンプルレートが 48、または 96kHz 以外のデジタル機器を入力するとき

サンプルレートが 48、または 96kHz 以外のデジタル機器を入力するときは、SRC を使用して自動的にサンプルレートを内部クロックに変換します。

Clock Source: Internal 48kHz、
96kHz
XLR 1 Input Format: AES 1&2
SRC: ON
XLR 2 Input Format: AES 3&4
SRC: ON



2 台の機器がそれぞれ異なるクロックを持っているとき

2 台の機器がそれぞれ異なるクロックを持っているときは、どちらかをクロックソースに選択してから、もう一台の機器の入力に対して SRC を ON にします。

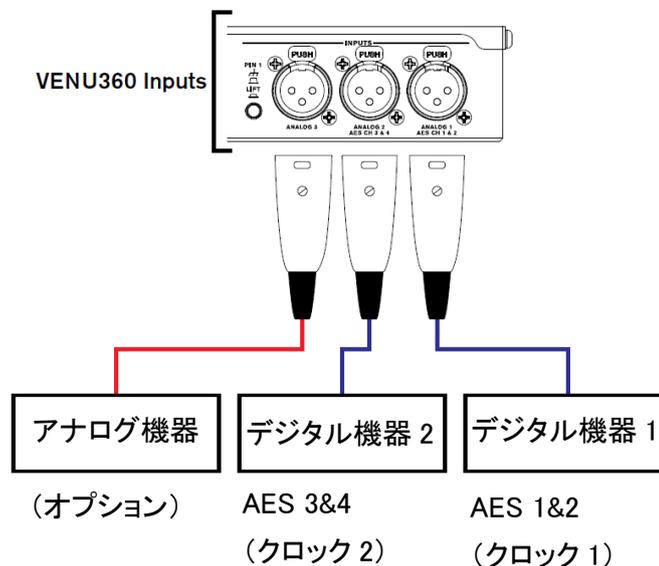
Clock Source: AES 1&2、

XLR 1 Input Format: AES 1&2

SRC: OFF

XLR 2 Input Format: AES 3&4

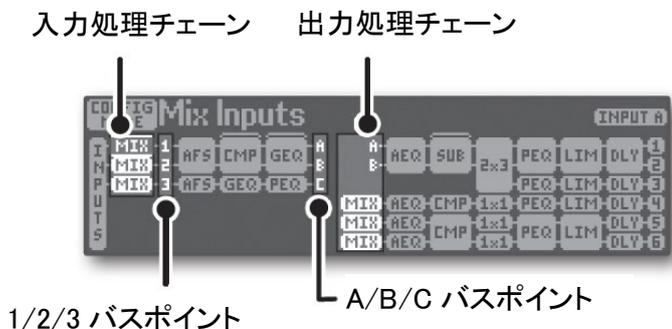
SRC: OFF



構成モード

ミキサー/ルーター構成

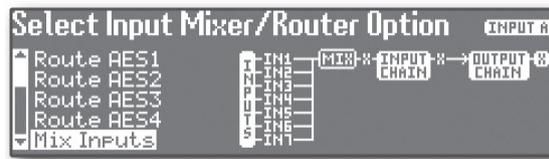
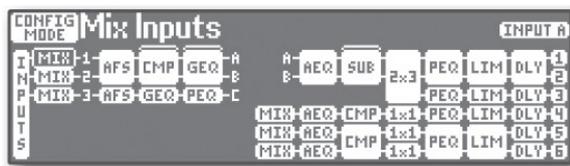
本製品の入力信号は、入力プロセッシング・チェーン、または直接出力プロセッシング・チェーンにミックス、またはルートすることができます。入力プロセッシング・チェーンにおいては、アナログ 1、アナログ 2、AES1 などの直接入力チャンネルをミックス、またはルートすることができます。出力プロセッシング・チェーンでは、直接入力チャンネル以外に、1/2/3 バスポイント、A/B/C バスポイント、および 1/2/3 バスポイント、A/B/C バスポイントの様々なサミングもミックス、ルートすることができます。1/2/3 バスポイントは入力プロセッシングの前に出力することができます。A/B/C バスポイントは入力プロセッシングの後に出力することができます。



※サミングすると、信号レベルがわずかに高くなります。その場合、EDIT ボタンを押して、サミング部分を選択し、マスターゲインコントロールを調整して補正してください。

ルーティング/ミキシングの設定手順

1. CONFIG ボタンを押します。
2. ホイールつまみと UP/DOWN ボタンで構成マップを操作し、入力処理チェーンまたは出力チェーンの設定を行うポイントのアイコンを選択、決定します。
3. Mixer/Router Option メニューが表示されます。ホイールつまみを回して目的の項目を選択し、ホイールつまみを押して確定します。
4. さらに設定する場合は 2~4 を繰り返します。



5. 完了したら、CONFIG ボタンを 2 回押して変更を適用します。

※同じチェーンの中であれば、COPY/PASTE ボタンで設定内容をコピー/ペーストすることができます。

プリセット

本製品はウィザード機能で作成/編集したセットアップ・データをプリセットとして内部に保存できます。プリセットには、ユーザープリセットとファクトリープリセットの 2 種類あります。各プリセットの違いは以下の通りです。

ユーザープリセット

ユーザーが作成したセットアップ・データを内部に保存するためのプリセットです。プリセット番号 1～75 に該当します。工場出荷時はファクトリープリセットと同じセットアップ・データが保存されています。新規作成/編集したセットアップ・データを保存する場合は、任意のユーザープリセット番号に上書きしてください。

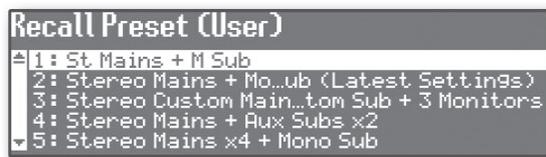
ファクトリープリセット

一般的な構成のセットアップ・データが保存されているプリセットです。プリセット番号 76～100 番に該当します。ファクトリープリセットは上書き保存はできません。

プリセットの呼び出し

任意のプリセットを呼び出すことができます。

1. RECALL ボタンを押してください。
プリセット呼び出しモードに切り替わります。



2. ホイールつまみを回して、呼び出すプリセットを選択します。
3. RECALL ボタン、またはホイールつまみを押してください。選択したプリセットが呼び出されます。

プリセットの保存

現在のセットアップ・データを任意のユーザープリセットに保存することができます。

1. **STORE** ボタンを押してください。プリセット保存モードに切り替わります。
2. 現在再現されているセットアップ・データのプリセット名がディスプレイに表示されます。プリセット名を変更するには、ホイールつまみを使用して希望の名称を作成してください。
3. 希望のプリセット名が表示されていることを確認し、**STORE** ボタンを押してください。
4. ホイールつまみ回して、保存先のプリセット番号を選択します。
5. **STORE** ボタンまたはホイールつまみを押し、プリセットを保存します。

※ウィザード機能や **INSTANT ACCESS** ボタンで作成/編集したセットアップ・データは、全てプリセットに保存されます。ただし、ユーティリティー機能およびリアルタイム・アナライザーの設定状況はプリセットに保存されません。

※任意のプリセットを呼び出し、その設定を1度でも変更すると **STORE** ボタンが点灯します。変更したセットアップ・データの内容を保持したい場合は、プリセットとして保存してください。保存せずに、別のプリセットを呼び出した場合は、変更内容が失われます。

プリセットのコピー

プリセットを任意のユーザープリセットにコピーすることができます。

1. 「プリセットの呼び出し」手順に従い、コピーするプリセットを呼び出します。
2. 「プリセットの保存」手順に従って保存してください。
3. ホイールつまみを回して、コピー先のプリセット番号を選択します。
4. **STORE** ボタンまたはホイールつまみを押し、プリセットをコピーします。

プリセットの削除

プリセットの削除は次の手順で行います。

1. **RECALL** ボタンを押してプリセット呼び出しモードにします。
2. **Empty** 以外のプリセットを選択している状態で、「**STORE**」 ボタンを 2 秒以上長押ししてください。Delete Preset 画面に変わります。
3. 削除するプリセットをホイールつまみで選択、決定します。
4. 「Delete the preset?」 のメッセージが表示されます。削除する場合は **YES**、キャンセルする場合は **NO** を選択します。削除したプリセット番号は **Empty** になります。

プリセットの管理

プリセットとして保存したセットアップ・データは、専用アプリ **VENU360 Control App** を使用してバックアップを作成できます。ただし、このバックアップはアプリを削除するとバックアップも削除されます。

※アプリのアップデートを行うと、バックアップが消失する場合があります。

バックアップの作成方法

1. タブレット端末や PC から **VENU360 Control App** を起動し、本製品を接続します。
2. プリセット管理ボタンを押します。 
3. 画面**左側**には本製品に保存されているプリセットのリスト、右側にはアプリ内に保存されているバックアップのリストが表示されます。**左側**のプリセットリストからバックアップを作成したいプリセットをタッチ/クリックしてください。
4. バックアップしたいプリセットが右側に移動します。

※プリセット名を重複することはできません。バックアップしようとしているプリセットと同じ名前のプリセットが、すでにアプリに保存されている場合、「**File exists, rename?**」と表示されます。プリセット名を変更してバックアップしてください。

※本製品に保存されているプリセットを変更しても、アプリ内のプリセットには変更されません。

アプリに保存されているプリセットを本製品に戻す

1. VENU360 Control App アプリ画面右側のバックアップリストから戻したいプリセットをタッチ/クリックします。
2. 左側のプリセットリストからプリセットに戻す場所を選択します。
3. <をタッチ/クリックします。
4. Do you want to replace preset A with B と表示されます。A に上書きする場合は OK、別の場所を選択する場合は No をタッチ/クリックします。
5. 指定したプリセットが左側のプリセットリストに移動します。

プリセットリスト

| User Preset # | Factory Preset # | Name | Crossover Configuration |
|---------------|------------------|---------------------------------|-------------------------|
| 1 | 76 | Stereo Full Range Mains | |
| 2 | 77 | Stereo Mains + Mono Sub | |
| 3 | 78 | Stereo Mains + Stereo Subs | |
| 4 | 79 | Stereo Mains + Aux Subs x2 | |
| 5 | 80 | Stereo Mains x4 + Mono Sub | |
| 6 | 81 | Stereo Mains x4 + Stereo Subs | |
| 7 | 82 | Stereo 2Way Mains | |
| 8 | 83 | Stereo 2Way Mains + Mono Sub | |
| 9 | 84 | Stereo 2Way Mains + Stereo Subs | |
| 10 | 85 | Stereo 2Way Mains + Aux Subs x2 | |
| 11 | 86 | Stereo 3Way Mains | |

| User Preset # | Factory Preset # | Name | Crossover Configuration |
|---------------|------------------|-----------------------------------|---|
| 12 | 87 | Mono Full Range Main | M-FLR1-M FULL RANGE |
| 13 | 88 | Mono Mains x2 + Mono Sub | M-1x3-M MAIN 1 M MAIN 2 M SUB |
| 14 | 89 | Mono Mains x2 + Mono Subs x2 | M-1x4-M MAIN 1 M MAIN 2 M SUB 1 M SUB 2 |
| 15 | 90 | Mono Mains x2 + Aux Subs x2 | M-1x4-M MAIN 1 M MAIN 2 A SUB 1 A SUB 2 |
| 16 | 91 | Mono 2Way Mains x2 | M-1x4-M HIGH 1 M HIGH 2 M LOW 1 M LOW 2 |
| 17 | 92 | Mono 2Way Mains x2 + Mono Sub | M-1x5-M HIGH 1 M HIGH 2 M LOW 1 M LOW 2 M SUB |
| 18 | 93 | Mono 2Way Mains x2 + Mono Subs x2 | M-1x6-M HIGH 1 M HIGH 2 M LOW 1 M LOW 2 M SUB 1 M SUB 2 |
| 19 | 94 | Mono 2Way Mains x2 + Aux Subs x2 | M-1x6-M HIGH 1 M HIGH 2 M LOW 1 M LOW 2 A SUB 1 A SUB 2 |
| 20 | 95 | Mono 3Way Mains x2 | M-1x6-M HIGH 1 M HIGH 2 M MID 1 M MID 2 M LOW 1 M LOW 2 |
| 21 | 96 | LCR Full Range Mains | L-FLR1-C FULL RANGE R-FLR1-R FULL RANGE |
| 22 | 97 | LCR Mains + LCR Subs | L-1x3-L MAIN C-1x3-C MAIN R-1x3-R MAIN L SUB C SUB R SUB |

| User Preset # | Factory Preset # | Name | Crossover Configuration |
|---------------|------------------|------------------------------|-------------------------|
| 23 | 98 | LCR 2Way Mains | |
| 24 | 99 | Full Range Stage Monitors x6 | |
| 25 | 100 | 2Way Stage Monitors x3 | |

※工場出荷時はプリセット番号 26～75 は Empty（空欄）に設定されています。

VENU360 Control App

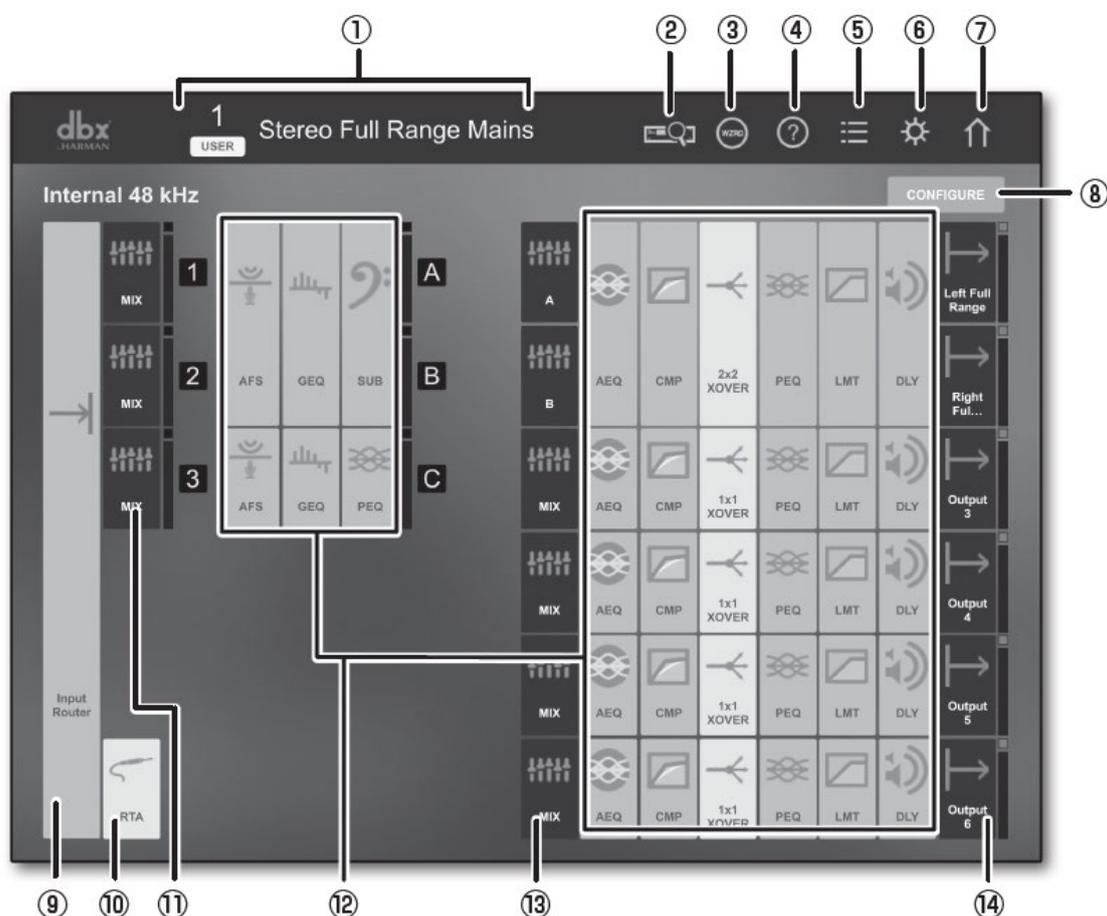
VENU360 Control App は Android、iOS、Mac、Windows の各デバイスで動作可能です。このアプリは Google Play、iTunes Store、www.dbxpro.com から入手できます。全てのウィザード、設定変更、RTA モニター、プロセッシングパラメーター、プリセット管理など本製品のフロントパネルから実行できる殆どの機能がこのアプリから実行可能です。さらに、インターネット上のオンラインチューニング・データベースに接続して、Crown、JBL、dbx 製品のチューニング・データをダウンロードすることができます。

VENU360 Control App のダウンロードとインストール (Windows PC)

1. Windows PC から dbx のホームページ (<http://www.dbxpro.com>) 内にある、DriveRack VENU360 の製品ページにアクセスし、Download から使用している PC の OS に対応する VENU360 Control App v.xxxx (Windows) をダウンロードします。
2. 現在実行しているアプリケーションを全て終了します。
3. ダウンロードした VENU360.exe を実行します。
4. インストローラーが起動し、Welcome to the DriveRack VENU360 と表示されます。Next ボタンをクリックします。
5. License Agreement が表示されます。内容を確認し、問題がなければ I accept the agreement を選択し、Next ボタンをクリックします。
6. Select Destination Location と表示された後、VENU360 Control App をインストールする場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更しない場合は Next ボタンをクリックしてください。変更する場合、Browse ボタンをクリックして、インストール先を選択してください。
7. Select Start Menu Folder と表示された後、VENU360 Control App のショートカットを作成する場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更せずにスタートメニューのフォルダーに作成する場合は Next をクリックします。変更する場合は Browse ボタンをクリックし、作成先を選択してください。
8. Select Additional Tasks と表示されるので、デスクトップにアイコンを作成する場合は Create a desktop icon の項目にチェックを入れて Next ボタンをクリックします。アイコンを作成しない場合は、チェックを外し Next ボタンをクリックしてください。

9. Ready to Install と表示されるので、Install ボタンをクリックし、インストールを開始します。
10. Completing the VENU360 と表示されるので、インストール終了後 VENU360 Control App を起動する場合は、Launch VENU360 の項目にチェックを入れて Finish ボタンをクリックします。起動せずに終了する場合、チェックを外して Finish ボタンをクリックしてください。

操作画面



1. プリセット情報
現在選択されているプリセット番号と名前が表示されます。
2. デバイス検索ボタン
ネットワーク上をスキャンし、接続されている機器を検出します。

3. ウィザードボタン
ウィザードの呼び出しを行います。
4. ヘルプボタン
現在表示されている画面の説明を英語で表示します。
5. プリセット管理ボタン
プリセットの呼び出し、保存、名前の変更などを行います。アプリに保存したバックアップリストを表示します。
6. システム管理ボタン
システム情報の表示、アプリケーションやファームウェアの更新、Virtual VENU360 で作成したプリセットと本製品の同期を行います。
7. ホームボタン
ホーム画面に戻ります。
8. CONFIGURE ボタン
構成モードを起動し、現在のプリセットで設定しているセットアップデータの編集を行います。
※構成モードをキャンセルするには ABORT を押してください。設定の途中で ABORT を押すと、Do you want to discard all configuration changes?のメッセージが出ます。破棄する場合は YES を押します。
設定を適用するには APPLY を押してください。Do you want to apply all configuration changes ?のメッセージが出ますので、適用する場合は YES、キャンセルする場合は NO を押します。
9. Input モジュールの表示
IN1～7 に割り当てられている入力ソースを表示します。
10. RTA ボタン
リアルタイムアナライザ機能を起動します。測定用マイクロホンの運用状況のモニターや、シグナルジェネレーターの ON/OFF、ルーチング設定などを行います。
11. ルーティング/ミキシングの表示（入力処理チェーン）
ルーティング/ミキシングのルートを表示します。ミキシングが設定されたスロットをタッチ/クリックすると、各チャンネルゲインを調整するフェーダーと、ミュートボタンを表示します。また、マスター出力の調整・ミュートの実行も可能です。

12. 音響調整機能

音響調整機能を表示します。各機能をタッチ/クリックすると、詳細なパラメーターを調整することができます。

13. ルーティング/ミキシングの表示（出力処理チェーン）

ルーティング/ミキシングのルートを表示します。ミキシングが設定されたスロットをタッチ/クリックすると、各チャンネルのゲインを調整するフェーダーと、ミュートボタンを表示します。また、マスター出力の調整・ミュートの実行も可能です。

14. 出力レベルメーター

出力レベルを表示します。また、ミュートの実行も可能です。

前面パネルロック

前面パネルのボタンなどをロックし、不用意な設定の変更を防止します。

1. **RTA** ボタンを押しながら本製品の電源を入れます。ディスプレイに **System Lockout** メニューが表示されたら、**RTA** ボタンを放します。

2. ロックする範囲を設定します。以下の項目を選択し、ホイールつまみを押します。

UNLOCKED

ロックを無効にします（初期設定）

LOCKED

前面パネルの機能全てをロックします。

LOCKED WITH AFS CLEAR

全面パネルの操作がロックされますが、AFS フィルターの **Clear** 機能のみ有効です。

このロックを設定中にAFS フィルターの **Clear** を実行するには、**EDIT** ボタンを押し、マップ上の該当する AFS モジュールをホイールつまみで選択・決定した後、もう一度ホイールつまみを押してください。

LOCKED WITH AFS AND MUTES

上記のロック状態に加え、出力ミュートボタンも操作が有効になります。

3. ディスプレイに **Press<RTA>to Confirm Selection.....**と表示されたら **RTA** ボタンを押して設定を確定します。**RTA** ボタン以外のボタンを押すと設定を中止します。

工場出荷時の状態へリセット

本製品にトラブルが発生した場合、システムをリセットすることができます。リセットにはハードリセットとソフトリセットがあり、ハードリセットをすると、ユーザープリセットを残し、その他の設定データを工場出荷時の状態に戻します。

※1 度リセットしたユーザープリセットは元に戻すことはできません。

ソフトリセット

1. **UTILITY** ボタンを押しながら本製品の電源を入れます。ディスプレイに **SOFT RESET Release UTILITY button** と表示されたら、**UTILITY** ボタンを放します。
2. **WIZARD** ボタンを押してソフトリセットを実行します。操作をキャンセルする場合は **UTILITY** ボタンを押してください。

ハードリセット

1. **STORE** ボタンを押しながら本製品の電源を入れます。ディスプレイに **FACTORY RESET Release STORE button** と表示されたら、**STORE** ボタンを放します。
2. **WIZARD** ボタンを押してハードリセットを実行します。操作をキャンセルするときは **STORE** ボタンを押してください。

ファームウェアの更新

本製品のファームウェアは専用アプリ **VENU360 Control App** を使用してスマートフォン、タブレット、PC などからインターネット経由で、更新することができます。

VENU360 Control App を使用

1. **VENU360 Control App** のシステム管理ボタン  をクリックします。
2. **Check for Firmware Update** をクリックします。最新のファームウェアが利用可能な場合は、自動的に更新を開始します。
3. ファームウェアの更新が完了すると、本製品は自動的に再起動します。

※チューニングリストはインターネットに接続していないと更新できません。

VENU360 Firmware Updater を使用

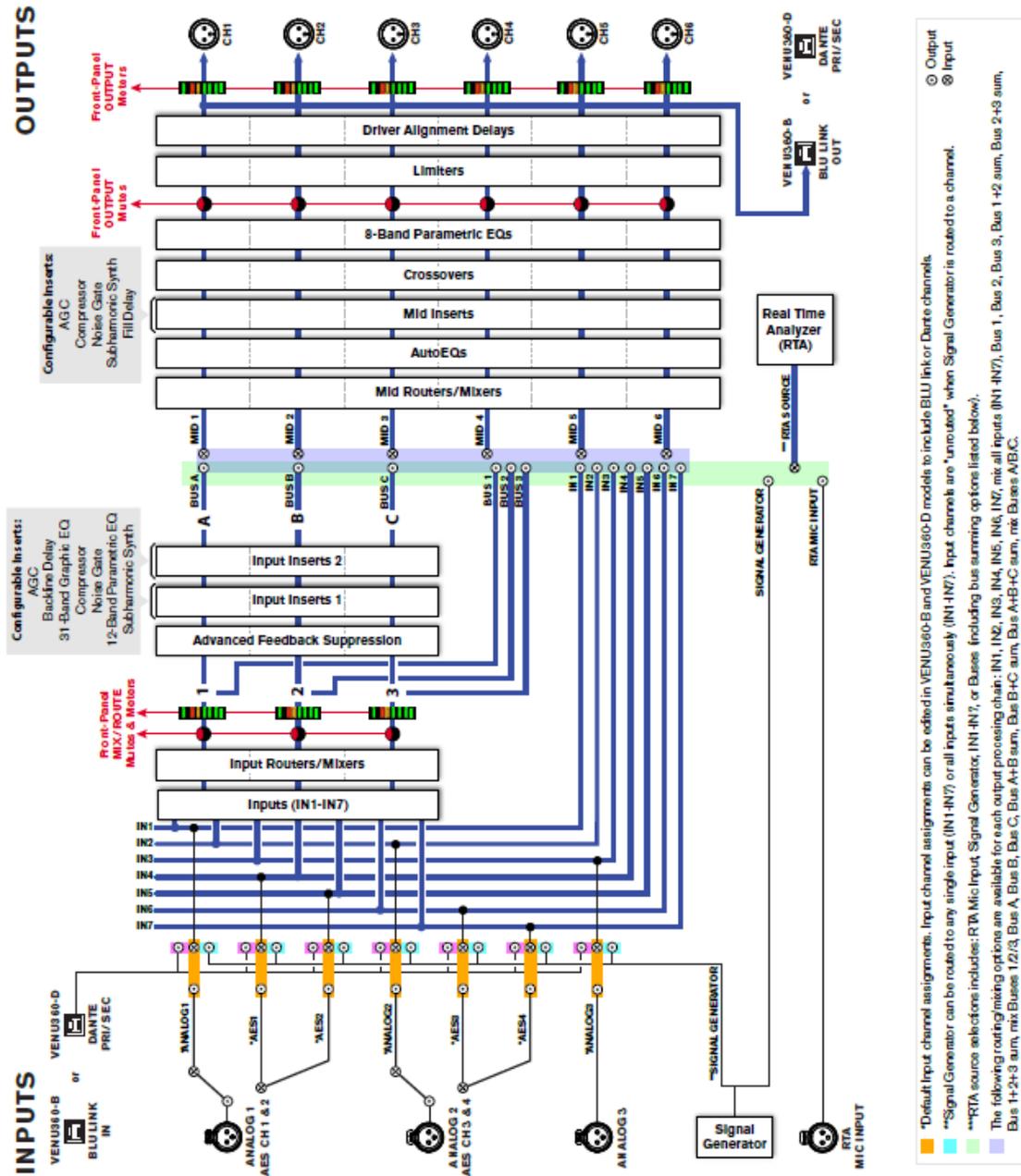
4. Windows PC から dbx のホームページ (<http://www.dbxpro.com>) 内にある、DriveRack VENU360 の製品ページにアクセスし、Download から使用している PC の OS に対応する VENU360 Firmware Updater をダウンロードします。
5. USB ケーブル (AB タイプコネクター) を使用し、本製品と PC を接続します。
6. 現在実行しているアプリケーションを全て終了します。
7. ダウンロードした VENU360UpdateInstaller.exe を実行します。
8. インストーラーが起動し、Welcome to the DriveRack VENU360 と表示されます。Next ボタンをクリックします。
9. License Agreement が表示されます。内容を確認し、問題がなければ I accept the agreement を選択し、Next ボタンをクリックします。
10. Select Destination Location と表示された後、VENU360 Firmware Updater をインストールする場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更しない場合は Next ボタンをクリックしてください。変更する場合、Browse ボタンをクリックして、インストール先を選択してください。
11. Select Start Menu Folder と表示された後、VENU360 Firmware Updater のショートカットを作成する場所を指定します。通常は変更する必要はありません。変更せずにスタートメニューのフォルダーに作成する場合は Next をクリックします。変更する場合は Browse ボタンをクリックし、作成先を選択してください。
12. Select Additional Tasks と表示されるので、デスクトップにアイコンを作成する場合は Create a desktop icon の項目にチェックを入れて Next ボタンをクリックします。アイコンを作成しない場合は、チェックを外し Next ボタンをクリックしてください。
13. Ready to Install と表示されるので、Install ボタンをクリックし、インストールを開始します。
※途中で「デバイスドライバーのインストール ウィザードの開始」と日本語 Windows OS からメッセージが出ます。ウィザードの表示に従い、USB ドライバーをインストールしてください。
14. Completing the DriveRack VENU360 と表示されるので、インストール終了後 VENU360 Firmware Updater を起動する場合は、Launch DriveRack VENU360

Firmware Updater の項目にチェックを入れて **Finish** ボタンをクリックします。起動せずに終了する場合、チェックを外して **Finish** ボタンをクリックしてください。

15. アップデータを起動すると **Current firmware version is** と表示されます。**Current firmware version is**～が現在のバージョン、**New firmware version is**～が利用できる最新のバージョンです。現在のバージョンと最新のバージョンが同じ場合はアップデートの必要はありません。「キャンセル」ボタンをクリックします。最新バージョンの方が新しい場合は **OK** をクリックして、ファームウェアの更新を開始してください。
16. ファームウェアの更新後 **Firmware update completed** と表示されるので、本製品を再起動してください。

※2014年11月現在、**VENU360 Firmware Updater** は Windows OS のみに対応しています。

DSP ブロック・ダイアグラム





※この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは、その会社の商標登録です。
また、掲載されている図、写真などの著作権はその会社にあります。